

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0373000744		
法人名	有限会社ヘルパーはうす		
事業所名	グループホームまぶる		
所在地	岩手県下閉伊郡山田町大沢4-38-5		
自己評価作成日	平成28年2月19日	評価結果市町村受理日	平成28年5月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gvovyoCd=0373000744-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gvovyoCd=0373000744-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成28年3月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・個性派揃いの入所者が、『喜怒哀楽』感受性豊かに、マイペースに生活しています。
-----------------------------------------

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山間部に位置し、旧来からの集落の地に、数年前に新設された当事業所には、震災以前の事業と同じ、“訪問介護ヘルパーハウス”、“居宅介護支援”、“グループホーム”が同じ敷地内に隣接して、連携・協力の上に、一体的な活動が出来る優位点を持っている。特に、地域活動の拠点ともなる地域交流スペースが設けられた事は、地域とのつながり、事業所の地域貢献の土台としても期待でき、地域に向けての認知症への理解対応の勉強会などの検討もしている。事業所の方針として、利用者一人ひとりのその人らしい生活の確保を目指し、“命を守る”主題に取り組んでいる。
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員作業カウンターにまぶる理念を掲示し、毎朝全員での唱和を行うことで意思統一している。	利用者一人ひとりの、その人らしい日々の生活を確保し、その生活と命を守るとの思いで、震災後に職員皆で考えた理念を、事業所内への掲示や唱和で意識づけをしている。調査時には、理念について話し合う機会がなかったことから、今後取り組みたいとしている。	理念は、事業所が運営やケアサービスを提供する上で拠り所としている大切な事を言語化したものであり、時間の経過や事業所を取り巻く環境の変化などによって、必要に応じて現状にあった理念にしていくことも重要と考えられることから、改めて理念について考え、話し合う機会を設ける取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同地区の保育園や老人クラブとの交流も回数を増やしつつ継続して行われており、隣接する交流スペースを利用する水仙の会(年7回の地域住民交流)と交流されたりと、接する機会も確実に増えている。	旧来から余り変化のなかった地域に数年前に新設された当事業所は、隣接して法人内のヘルパーステーションに、地域との交流スペースがあり、地域の方々の活動の場として、各団体の会議などにも利用され、その折にホームに立ち寄られ交流の機会にもなっている。また、地区内保育園、法人クラブ、地域の“水仙会”との交流も続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記、老人クラブや水仙の会など、地域の人々に向けて認知症の理解対応の勉強会開催の働きかけを行っており、興味を持ってきている住民もいますが、まだ実施には至ってはいない。今のところ相談に来た方への助言程度になっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者の状況、活動報告をし、報告に対して委員の方や他グループホーム関係者から質問、意見、評価をいただき、その後のサービス向上に努めている。(例えばBBQの肉の提供についてとか…)	運営推進会議のメンバーに、同業者の他の事業所の方々の参加や、議題によっては、その関係機関から、ゲストとして出席頂くなど、外部からの見方発想など積極的に受け入れ、会議の活性化に努め介護の実践に生かしていく体制が見られる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者とは事業所としての不安や連絡事項を密に取っているつもりであるし、例えば介護保険法改正に伴う運営状況変化などを報告する会議に出席してもらうなど関係を保っている。(営利法人だけの会議に出席してもらった)	町の介護保険課との関係作りを深めることに努めて、制度の改正時にはその説明を受けるなど、事業所の抱える不安や課題にも助言を受けている。また、営利法人の代表者会議を持つ機会にも協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関扉、玄関うち扉には鳴り物を設置し出たがる利用者の動きを把握できるようにしている。抑えるのではなく寄り添い出る支援を行っている。身体拘束についてはしないというのが施設の方針だが、やむ得ず拘束を実施する時は、改善が見込める物に限り関係者と協議のもと期間を定め行う事としている。	利用者のパターンを把握することに努めて、拘束につながるような様々な具体的内容への対応策を考えている(玄関の出入りなど)。身体拘束の実体はないか、拘束排除への理解と、その対応についての手順など記録類の整備が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連法についての研修に参加する機会がなく、研修機会があれば参加したい。職員間での助け合いでストレス軽減を計り、入所者に対してゆとりある対応に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修機会が少なく全職員に周知されていない。相談に来た方には窓口を提供できるくらいの情報は習得したいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時点で看取りに関する意向を提出頂き説明し、更に契約の際に重度化した場合における看取りの意向を再確認している。ホーム内での生活上考えられる転倒や感染等に伴う長期臥床での機能低下等々考えられるリスクについて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情窓口、投書箱を設置し、担当者が苦情に対応できる体制を作り、毎年4月には入所者及び家族へのアンケートを実施している。その家族のアンケート集計はMEETINGで報告している。	家族が、利用者についての相談・苦情を外部に相談等が出来る方法や、その窓口や担当者を重要事項に明記し、説明もしている。毎年度当初に、利用者と家族に向けてのアンケートを行い、その集計から利用者家族の満足や安心を探り、職員での共有に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の朝礼や定期的なMEETING、必要であれば意見や提案などはいつでも管理者が聞く体制ができており、可能であれば即日対応している。	運営者が介護の現場に直接関わっているため、常時、職員の意見を聞く状況にあり、すぐに、その対応が出来る体制になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全ては介護報酬に左右されることであるため非常に難しい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加するだけでなく、定期的な勉強会に外部職員を招聘して開催するなど、各職員がより良い介護を提供できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のGHとの交流のほか、沿岸地域のGHとは交換研修や交流会を開催するなど、お互いに刺激し助言しあってお互いの良いところを取り入れている。町内GHとは運営推進会議に参加し助言し合っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	居宅に在している利用者にはホーム見学、施設入所している利用者には伺って面談するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同じようにホーム見学を勧め、家族の不安や意向、要望に傾聴するようにしている。その中でも解決可能なものには助言を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状況に応じ、不慣れな環境に置かれる不安や不穏行動に留意して、その時々に必要なサービス提供をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居している9人の関係性を考慮しつつ、入所者それぞれの得意分野を活かせるよう役割構築し継続して、自信の回復に繋がるよう共に行っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出、宿泊はいつでも可能となっている。また行事(BBQ,老人クラブ慰問、誕生会等)の際には参加を呼び掛けたり、面会時には衣類の確認や衣替えをしてもらったり、入所者の状態を報告するなど家族の関わりを持ってもらえるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員側からイベントなどの提案を行い外出している。地域行事にはその出身の利用者を参加させたり、行きつけの美容院を使ったりしている。	利用者の懐かしい所、安心できる場所に出掛けるほか、地域の催しに職員同行で、皆で出掛けるなどの支援が行われている。買い物や、外食などの新しい馴染みへの取り組みや、その人らしい役割を果たすことも利用者にとっては、心癒される馴染みのこととして事業所は取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入所者が気軽に座れるよう、座る場所は特に決めていない。意志疎通が困難な入所者に対しては職員が間に入り仲介するなど関わりを持ってもらえるような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した利用者が定期的に来訪する例もある。年賀状やお中元が届いたりする事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3か月に1回本人の満足度や希望、意向を聞き取り、入所者の思い、意向に沿う援助を行っている。	利用者一人ひとりを担当する職員が、本人の思い、希望の汲み取りに向けて取り組み、定期的なモニタリングを行い、その人らしい生活の確保に向けて取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活の何気ない会話や家族からの情報提供から、職業であったり生活の様子などを聞き取りっている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共同生活の中で、一人ひとり、その日の状態(体調や意向)を考慮しながら、押し付けにならないように職員は対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1回のモニタリングを介護職と介護計画作成者で行い、現状を踏まえた介護計画を作成している。	介護計画の作成にあたって、利用本人の機能や生活の現況を十分に見極め、家族や医療など関係者の意見も取り入れ、設定期間での見直しを行っている。期間途中でも、本人の状態の変化に対応した新たな目標にも取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、通院の経過を個々のケース記録に記入している。また重要事項、通院録については別途連絡ノートを設け、一覧できるようにし、朝、夕の申し送りや月1回のミーティングで個々のケース情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	敷地内に併設している法人事務所内に、誰でも利用可能な交流スペースがあり地域住民を中心に会議や趣味のサークルなどで利用されている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	病院、美容室、理容室等の馴染みの店や、人などを把握し施設外といつでも接点を持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居前の主治医に継続して診療をお願いしており、町外は家族対応、町内はホームで対応することとしている。また家族が望むのであれば、紹介状をもって町内病院に移行することも可能としている。	利用者のほとんどが、入居前からのかかりつけ医で受診している。町内のかかりつけ医への受診は、事業所で対応し、町外の場合は、家族にお願いしている。本人の病状や重度化への対応として、家族の希望や事情により、町内の医療機関への転院に向けた支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	基本的に通院しての診療だが、終末期にあつては主治医、家族、ホームの相談で訪問診療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に書類での情報交換を行い病院、家族とホームの事情をふまえた上で話し合いを行い、治療している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の話し合いを行っており、状態変化時には家族への報告や相談を行い、再度主治医と家族と終末期のあり方について協議している。	利用契約時、家族と本人が重度化した場合の話し合いを行い、“意向確認書”に記入をして頂いている。状態変化の際には、主治医の見解も合せて家族と相談し、終末期のあり方を協議している。訪問診療の可能な医療機関への主治医の変更を進め、重度化や看取りへの支援に向けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回、消防協力のもと、AEDを用いた心肺蘇生法と応急手当の訓練を受けている。マニュアル作成や研修資料の活用により急変時や事故発生時に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難、通報、消火訓練を消防等の協力のもと行い、短時間で効率的に避難できるかの助言をいただいている。また、避難訓練では地域住民にも参加してもらっている。	主に火災を想定して避難訓練などを、消防関係者の協力のもと、年に数回実施している。夏季には、夜間想定で訓練を実施しており、その際消火訓練も行っている。警備会社との契約が出来ており、緊急時には駆けつけていただくこととしていることから、迅速な対応につながるものと考えている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入所者の人格を理解し、信頼関係構築のもと一人ひとりに合った声掛けを行っており、わかり易い単語や方言なども用いています。	利用者一人ひとりの誇りの尊重と権利の確保を大事と考え、本人を良く知り、理解することを土台に信頼関係を築くことに努めている。人間としての尊厳を損なう言葉遣いや、羞恥心への気遣いにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の活動において、自己決定出来る入所者に関しては、買い物やドライブ等での外出の際に必要な物等自分で選び購入できる様支援しています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課の他にも、一人一人の希望やペースに応じた援助を行い生活の支援を行っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝鏡の前での整容を声掛け援助している。散髪・パーマ・毛染めを訪問理美容に依頼し要望に応じて支援しています。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や旬の食材を取り入れ、栄養士の管理のもと入所者4名～5名、全員で取り組んで調理から片付け迄出来る献立や作業にも工夫し支援しています。	法人内の訪問介護事業所の栄養士のメニューによる週単位の献立で、職員も一緒に味わう楽しい食事になるような雰囲気作りをしている。また、家族や近所の方から頂いた食材を活用することや、利用者が希望するメニューを取り入れることもある。準備や後片付けは、職員と一緒に、できる所は利用者にも手伝っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量をチェック表を用いて職員も把握し、一人一人の状態に合わせた水分補給や食事形態にも工夫し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを一人の状態に応じた支援をしている。また、週2回義歯洗浄剤を使用し義歯の消毒をしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	意思表示の出来ない方への定期的なトイレ誘導を行ったり、行動からのサインを見逃さず排泄への支援をしている。また、リハビリパンツから布パンツに変えるなど個々の力に応じた対応を行っています。	排泄チェック表や、利用者の素振りを見逃さず、トイレでの排泄が出来るよう、声かけや誘導し自立への支援に向けている。衛生用品の選択にも、一人ひとりの状態に合わせた用品で自立の助けになるよう工夫し、不潔にならないよう注意しながら、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々のラジオ体操や、動の活動にも力を入れ取り組んでいます。また、毎朝の牛乳の提供や野菜を多く取り入れた食事を提供しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日を問わず日中帯のどの時間でも入浴できるようにしている。また意思疎通が困難な利用者に対しては週2～3回の入浴が確保できるようにしています。	入浴の曜日、時間帯の制限はなく、日中どの時間帯でも自由に選べるようになっており、定期的に声かけを行い、希望を聞きながら入浴支援を行っている。意思表示が難しい方でも、声かけを工夫しながら、週2回～3回の入浴が出来るようにしている。時折、菖蒲湯等を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就寝時間はだいたい決まっているが、入所者に合わせた対応をしています。休みたいときに居室で休めるよう対応したり、日中の活動等で体を動かし安眠できるよう対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を個別のファイルに綴じ、いつでも確認出来る様にしています。新たな薬が処方された際には、連絡ノートや申し送りにて職員同士情報を共有し合い、症状の変化観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族よりも生活歴や趣味等の情報を得て、日々の生活の中でも、食事や洗濯たみ、活動の中で役割を設けて作業して頂いています。また、散歩、ドライブ、買い物外出での気分転換を図れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内での散歩や突発的なドライブ・買い物などに出掛けたりしています。また、町外への通院や誕生日・面会時などを利用し、家族と外食・ドライブ等の機会を設けたり協力頂いたり、時季的なドライブを企画し出掛けれる様支援しています。	事業所周辺での散歩を日常的に行なっているほか、買い物、ドライブなどに職員と一緒に出掛けるなど、できる限り外に出ていただけるよう努めている。家族との通院、面会の際の外食、ドライブなど、家族とのつながりが途絶えないよう支援している。事業所で行う季節ごとのドライブ、催し物への外出も実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持、使用は入所者や家族の希望に合わせて可能としており、外出時には欲しいものを所持している金銭から購入している入所者もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話をかけることが可能となっています。遠方にいる家族から届きものがあつた際など、本人から電話を掛けたりと支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中、ホールで過ごされる入所者も多く、活動などで季節ごとの装飾を作ったり、季節の植物を飾ったりし季節感を感じられ、居心地良く過ごせるように心がけています。	居間は、採光が良く、季節に合わせた装飾や写真等がほど良く飾られており、落ち着いた雰囲気がある中、コタツテーブルがあることにより、更に温かさが感じられる。玄関を含めた共用空間は、掃除が行き届き清潔感があつた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は気の合う仲間同士が過ごせるようにしており、テーブル席、ソファ席と自由に座れるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から仏壇など持ち込み置いている入所者もいたり、着慣れた服や使い慣れた物を衣装ケースやハンガーラックを置いて使いやすく工夫しています。	ベッド、エアコン等が事業所の備え付けであるが、利用者によっては、仏壇を持ち込まれたり、衣装ケースを持ち込んだりと、利用者個々に合わせた居室づくりがされている。共用空間と同様に、掃除が行き届き、生活観がある居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の居室の玄関となる入り口にはわかりやすいように名前と自宅のある場所の地名を表示しています。また、トイレ・浴室・洗面所等もわかりやすいように表示しています。		